

ご 挨拶

農)おくたま農産 代表理事組合長 小野寺勝義

今年一年有難うございました。おかげさまで無事一年を閉じる事が出来ました。役員数が減員した新しい体制となる中、どうなるか不安でしたが組合員の皆様並びに関係各位の多大なるご指導ご協力により、無事に年末を迎えることができました。本当にありがとうございました。

今年の作柄を振り返ると、春圃場準備は好天に恵まれ順調に進みましたが復田した圃場は水利の復旧に手間がかかり、又、水を貯める事にも時間を要し、代掻き・播種・除草剤散布時には作業員の皆様に苦勞をおかけしました。梅雨時には適度な雨のお蔭で水は十分に間に合いましたが、暑過ぎて大豆の初期成育が遅れ開花期に向けて不安を残しながらの作業となりました。7月に入っても平年を上回る高温が続き、スイートコーンでは生育が早まり収穫適期の判断が難しかったです。8月には特にお盆の時期から高温多雨となり水田の落水が遅れ、大豆の登熟の遅れとなり、水稻・大豆とも収穫に影響が出ました。水稻は倒伏した圃場が散見され、大豆は青立ちが多く収穫作業や品質に影響が出ました。

今年の収量は飼料米(たわわっこ)・モチ米・大豆は前年を上回る収量でしたが、飼料米(つぶゆたか)は若干減収し、とうもろこしは高温の影響で減収となりました。今後も「異常気象」と言われるほどの『暑い夏』が当たり前になると予想されます。その気候に合った作物と品種を選定し作付けする事が一層大事であると考えます。これからもご指導宜しく願いいたします。

最後に、関係機関の皆様、作業に当たられた皆様、組合員の皆様、そして地域の皆様、今年一年の感謝を申し上げ年末の挨拶といたします。

皆様おそろいで穏やかな新年を迎えられますよう

心よりお祈り申し上げます。

令和6年12月20日（金）岩手県民会館大ホールで開催されたいわて農林水産躍進大会において

「いわて農林水産振興協議会設立20周年記念特別功労賞 農業部門」受賞

特別功労賞：本県農林水産業及び農山漁村の発展に貢献し、その功績が特に優れ、他の模範となる農林水産業者及び組織等を表彰



県産木材で造られた立派な賞状を頂きました。



ちょうど真ん中に組合長がいます。

受賞者の皆さんとステージに整列！



挨拶する達増知事です。



緊張ぎみの組合長



大会に参加した小野寺組合長、小山副組合長
藤野水稻部長の3人で記念撮影



ステージには主催者、来賓者が多数ご臨席。

令和7年度作付けに向けて！

11月をもって飼料用米収穫作業、大豆収穫作業も終わりましたが、次年度作付けに向けた圃場管理も着々と進められています。作業員の皆さん、寒いところ大変ご苦労さまです。

《冬期間、こんな作業をしています》

○溝切りによる表面水の処理



溝切りにより表面水を処理し圃場を乾きやすくします。水の貯まる圃場には効果的です！

○下層土の破砕による排水性の向上



土壌構造がゆがむことで排水性が改善されます。また、下層土を上層に上げることで作土層がリフレッシュします。



○堆肥運搬・散布



ユンボにより堆肥をトラックに積み込み



荷積みされた堆肥を各圃場へ運搬



マニアスプレッタ（散布機）に積み込み



マニアスプレッタにより堆肥散布



農産では稲ワラ収穫（梱包・供給）しており堆肥散布が「地力増進」に有効。



○もみ殻暗渠の実施（特に大豆圃場では湿害対策として有効）



「モミサブロー」です。硬盤層を破壊しもみ殻を充填、地下への透水性を向上させる農業改良技術です。大豆は発芽時の湿害に弱いので非常に有効な作業です。

○畦塗り(くろぬり)の実施



畦畔に土を塗りヒビ割れ等防ぎ防水加工をします。また、ケラ・モグラが開けた穴から漏水を防ぎます。

編集後記

今回「年末特別号」を発行することとしました。
県から表彰されたことも報告でき頑張って作成しました。
次は「新年号」です。お楽しみに！（ネタ切れですが・・・）

※上記作業のほか水路補修や暗渠の補修、水源確保対策・明渠などを行ってます。冬もやることいっぱい！